

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	交付金	補助金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
地域掲示板設置事業	284	235	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するともに維持・管理・運営を行う。	継続事業：ガラス張りにした掲示板の清掃 掲示板に水が入っている箇所がある	シルバー人材センターに年2回清掃を委託 掲示板の背板シーリング工事	清掃することによって清潔さが保たれ見やすくなった 掲示物が濡れなくなった	掲示板の管理について地域住民と考えていきたい	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	依然コロナ禍の最中ではあったものの、工夫を凝らしながら各種イベントも再開され、多くの地域住民が参加されるなどコミュニティの活性化に貢献されたものと評価。	掲示板的清掃を行い適切に管理いただいており、広報に有効な手段となっているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
AED管理事業	10	10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの消耗品交換の必要性がある	AEDバッテリーとパッドの交換	AEDバッテリー・パッド交換した	地域住民へAED講習会などへの参加の呼びかけ	なお事業実施にあたっては、地域内の各団体及び地元住民の方への丁寧な事前調整を意識していただきたい。	なお事業実施にあたっては、地域内の各団体及び地元住民の方への丁寧な事前調整を意識していただきたい。	消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
市民レクリエーション大会事業	280	280	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	支援することにより、スムーズな開催ができた。	地域住民の大きなイベントになっている。子ども会の活性化に寄与している。	自治会、こども会入会者の減少は止まらない。今後とも地域住民の参加率向上を図り、自治会、こども会等の発展につなげていきたい。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	400	400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回の「秦野まちづくりだより」の発行	今年度は予定どおり3回の発行をすることができた。	「お聞かせください！みなさまのこえ」では、地域内での要望を聞くことができ、「お伝えします！みなさまの活動」では、地域内で活動されている団体さんが協議会の事業に参加協力いただけることとなった	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。		写真が多数掲載されており、イベントなどのイメージがしやすい。また意見募集の掲載など、地域住民を巻き込んだコミュニティ紙となっており、よくまとめられている。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
合同防災訓練事業	200	200	小学校児童と地域住民が合同で防災訓練を行い、防災意識を高めるとともに地域住民と交流を図る。	秦野小学校3年生、4年生児童、保護者、南畑公園自主防災会合同防災訓練を支援する	6月に秦野小学校・PTA・南畑公園自主防災会合同訓練を実施し、12月に地域での防災訓練を実施した。	防災訓練を実施したことにより、地域の安全について考えることができた。	色々な体験ができるよう、防災訓練の内容を検討する		小学生と地域住民が合同で防災訓練を実施したことで、防災意識の向上に繋がったとともに共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品整備事業	22	22	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	会館での座椅子がないことでお年寄りが量で活動ができなかった。	扱いやすい備品の整備、座椅子を購入。	会館でのお年寄りの活動が増えている。	備品の維持管理、使用頻度が高く傷んでいる備品の買い替え時期の検討。貸し出し備品の充実。感染症対策用品で地域活動に必要な物品の検討		利用者のニーズに即した備品整備ができたものと評価。会館利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 自治振興費	
はたのひろば兼事務所管理運営事業	990	990	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員相互の事務の効率化を図るため開設したはたのひろば兼事務所について、管理運営を行う。	はたのひろば兼事務所の平日開所の継続	平日は13時～17時開所。毎月、ミニイベントを行っている。	会員の会議・打ち合わせ以外に立ち寄り方も増えた。はたのひろばを利用したミニイベントの開催も盛況である	コミュニティ活動の拠点施設として事務所機能を充実させるとともに地域住民・地域団体の利用も促進。		感染症対策を講じながらも、コロナ禍前の週5日の開設に戻して運営している。コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域ギャラリー維持管理事業	50	50	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品を入れ替えている。	1か月ごとに作品の入れ替えを継続	季節感のある作品もあり、足を留めて見ているかたもいる	作品集めはまだまだ必要を感じている。いろいろな作品を掲示・展示していきたい。		作品の展示を通じて、地域のつながりが生まれているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域活動備品整備事業	177	177	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していくための備品等を整備する。	地域活動をするにあたって、備品が充実していなかった	地域活動に必要な備品の整備：ポータブル電源・インパクトドライバー	あおぞらdeはたのフェスタや地域の盆踊りなどで役に立っている。	コロナが5類になったが、これからも地域住民が参加できる方法の検討が必要		地域活動の円滑な運営に寄与。今後も適切な備品管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費	
校区盆踊り大会事業	200	200	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。	備品を備え、スポーツ振興会・子ども会への支援が充実したと思われる。	踊りや太鼓の継承、参加する側から開催する側への転換期の支援など		コミュニティ意識の高揚を目的とする中で参加人数の増加については、大変評価できる。	空港・観光課 自治振興費	
地域イベント活性推進事業	850	850	地域の交流と地域活性化を図るため、地域活動を推進・支援していく。	あおぞらdeはたのフェスタ、雪あそび	あおぞらdeはたのフェスタは地域の方々が参加・来場し盛況であった。雪遊びは雪不足のため実施せず。	あおぞらdeはたのフェスタを開催することで、地域住民同士の顔合わせができ、親睦をはかることができた。	もっと地域住民主体でできるようなことを考えたい。雪遊びは、栄村以外の地域でも打診が必要である。		雪遊びについては雪不足により実施できなかったが、子どもが喜ぶコンテンツであるため、5年度以降は雪の確保を検討してほしい。	空港・観光課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

健康啓発講座開催事業	50	補助金	50	運動による認知予防講座及び正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	地域住民の健康増進に寄与する講座がなかった	健康講座・7月と10月に楽器を手作りし音楽に合わせて体操する講座を行った	手作業と体操をすることで健康増進に寄与した	定期開催や参加しやすい環境づくりなど幅広い年齢層に参加いただけるよう企画していきたい		認知症は、予防と早期発見が重要であるため、不安になったときの相談先等についても講座で取り上げていただきたい。	地域支援課 自治振興費
農業体験学習事業	500	補助金	500	地域の子どもたちに農業体験を通じて、地域交流を深めるとともに、食べ物の大切さ、作り育てる喜びを体験し、農業への理解を深める。	自然あふれる地域ではあるのに自然に親しむ場がない	地域で貸農園を使い、土地を耕しサツマイモを植えて育て収穫した秋には玉ねぎを植えた。	普段、土を触ることが少ない子供たちに、育てる楽しみ、作物の出来方、大変さが伝わった。	できるだけ多くの地域住民に参加してもらうよう啓蒙活動をしたい		子供たちが農業体験を通じて食べ物の大切さ、農作物を作る楽しさを知ることが出来た。	農政課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金	80	地域と学校と一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていこう。	毎年渋谷中学校・地域団体と連携して行っている。	渋谷中学校の生徒が花を育てるための、花苗・土などを支援した。	校内が花いっぱいになった	今後も継続的に支援し、地域に還元して花があふれる街を目指していきたい。		緑化事業の継続と、地域とのふれあいの場を更に広げることが出来た。	公園みどり課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	670	補助金	670	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	平成22年度から継続事業。カブト虫養育場での幼虫飼育、腐葉土の入替用意。	養育場の改修。カブト虫講習会、腐葉土の入替。	養育場の土の入替をすることにより、自然のかぶと虫の産卵場に最適となる	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。		飼育体験や昆虫とのふれあいを通して、貴重な自然学習の場を設けることが出来た。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具、消耗品の不足。	コロナによりキッズランドの開催減少により実施せず。	コロナによりキッズランドの開催減少により実施せず。	参加人数が多く、教材、消耗品が不足気味。継続的に支援する必要がある。		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	4,893			事業提案限度額 8,760千円 次年度繰越金額 3,867千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。						コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	277	電気使用料 10 機器借上料 267	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	北豊島地域において、細街路でのひたつき等路上防犯の被害を未然防止を図る。	防犯カメラ設置箇所は2カ所ある（北豊島地区・荘園地区）。	防犯カメラを設置した事により、未然に犯罪の防止並びに犯罪の解決に寄与する。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。	前年度はコロナ禍により実施できなかった事業もいくつか再開され、地域のにぎわい創出に寄与されたものと評価。継続事業が多くなっており、定期的に内容の見直しを図りながら、新たな事業の展開にも期待するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む 危機管理課 自治振興費
地域行事活動促進事業	75	行事報償金 75	地域行事（校区盆踊り大会・校区秋祭り等）に必要な備品等の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	コロナ感染防止の為中止 地域のつながりがあまりない	地域の情報がふえる	地域のことがよくわかる	多くの人に参加してもらう		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価 空港・観光課 自治振興費
AED管理事業	43	消耗品費 43	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	AEDは万が一の時に、人の生命をまもるものであり、出来るだけ多くの公共施設に設地しなければならない。	AEDは北豊島プラザ・住吉会館・北豊島会館・荘園会館の4カ所に設置されている。	プラザ等で実施される会議、イベントが安心して行える。	AEDは万が一の時に、人の生命をまもるものであり、出来るだけ多くの公共施設に設地しなければならない。	健康増進課 保健衛生総務費	
街路灯強化事業	10	電気使用料 10	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	道路照明は、路狭小、道路交通、防犯上問題がある場所の安全を解消を図る必要がある。	通学路や交通量の多い狭い道路の照明が不十分であると思われるところの交通安全を図る。	道路照明を設置ならびに灯器のリニューアルにより、夜間でも明るく安心して通行でき交通安全が図れた。	狭い道路で道路照明の設置が必要であるため、年次ごとに設置を進めていく。	土木管理課 交通対策費	
防犯灯強化事業	1,513	修繕料 1,513	安全・安心なまちづくりの一環として、夜間の広場を明るくし、防犯対策強化を目的に防犯灯を整備する。	ソーラー・LED照明灯（1基）設置工事 設置第5号機 設置場所…豊島公園（豊島野公園・荘園1丁目第2公園、北森木公園北今在家広場よりの展開） 現在、LED照明（電源供給式）は設置済み。全体的にチョット暗い感じ、治安面での不安有。又非常時には、大いに役立つと考える。	R4.8/29～/30に設置完了 ソーラー街路灯の効果は大きく、治安は勿論ながら、災害時の避難場所としての効果が期待できる。 地域住民への「太陽光活用による、屋外用LED照明」設置における効果大。	・設置後の環境の変化を積極PRする。 ・今後、公園を含め設置可能箇所への導入展開活動をすすめる。 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動に貢献することを期待。 ★説明用プレート設置、広報誌での紹介を実施。	・設置場所に対する近隣住民とのトラブル防止の為十分説明をする。 ・定期的にチェックを実施し、状況確認を定期化する。 ・初期不良等の確認を実施。	公園みどり課 公園費	
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	野外レクリエーションでもある事から、コロナ感染対策を充分に考慮しながら開催しました。 プログラムも密にならない様な内容を考えました。	令和4年11月23日（日）10～12時北豊島小学校グラウンドで実施、久々のレクリエーション大会で、景品が足りなくなる程多くの参加があり、参加住民はとても楽しまれた様子でした。	多くの地域住民が親睦を深め、コミュニティの輪を広げられました。	参加人数が多くてとても嬉しいですが、予定人数をオーバーした時の対応と対策を今後考えていく必要があります。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	347	補助金 347	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民の活動・コミュニケーションがコロナ禍による制限等で停滞の傾向にあり、コミュニティ紙からの発信も生かされなかった。	コロナウイルス感染症の収束傾向にともない地域の活動・コミュニケーションも進展。 コミュニティ紙からの発信にも期待が与えられている。	諸活動の報告、予定されている諸活動の紹介が中心となるが、発行回数が少ないため、新鮮さに欠けるため、届けきれない。	住民に求められる活動、魅力ある紹介、魅力ある紙面づくりに努めなければならない。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人が集まるきたてしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、将来予想される「東南海地震、地球温暖化に伴う異常気象による、局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	コロナ禍により実施できていない。	同上により効果判定なし	防災は、地震・大雨・火災等と様々なものがあり、それぞれに沿った防災講習を行ってきたい。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価 危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品整備事業	40	補助金 40	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	二酸化炭素濃度計 設置事業 …コロナウイルス対策として新型コロナウイルス感染症感染の大きな原因である空気感染の防止に役立てる為。室内のよどんだ空気入替、空気中のコロナウイルス減少・感染確立減少に役立つ。空気の淀み具合の目安になる「二酸化炭素濃度計」を設置する。 本年度、きたてしまプラザ内…4月以降2ヶ所に設置を計画。	〔設置〕11/15 2ヶ所（2F中会議室、ふれあいルーム）に設置 〔計器〕厚生労働省が推奨の二酸化炭素濃度計 商品 CHC製「マーベル001」 ・測定方式：NDIR（非分散赤外線）センサー（単光源二波長方式） ・特徴：高精度センサー、濃度の3段階LED表示、USB電源 〔結果〕規定…MIN 850～MAX1000ppm以下に環境を保つ！！ Overした場合は、徹底して「換気をする」。設置後、換気ナンの状態で活動すると30分程度で、規定値をOverする。 ※十分な効果が認められる為、3密（密閉、密集、密接）回避厳守する	・設置後の環境の変化（管理体制強化）を積極PR ・一般住民への導入展開活動 ・コミュニティ協議会としての導入取組みPR活動	・監視体制の強化 ・管理体制の強化 コロナウイルス感染者数のリバウンド防止につながります。	コミュニティ推進課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

きたてしまプラザ活用事業	2,397	補助金	2,397	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動、中学生学力向上のために「池田ふくまるはばたき塾」開講支援等を行うとともに高齢者等憩いの場としての談話室の使用活動を行う。	きたてしまプラザを地域住民相互の交流拠点として、住民対象の文化教養教室 子供支援活動が出来た。池田ふくまるはばたき塾の開講支援 又談話室も完成し、本格的に高齢者等憩いの場として有効活用していきたい。	今年度はコロナ禍ですが少しずつ通常活動に戻りつつあります。協議会の拠点として又各種文化教室開催場所 地域の中学生学力向上の為 夜間教室（はばたき塾 82回 1,683人）の提供 子育て支援 地域住民相互交流 親睦の場として開放運営する目的で十分に活用されています。（利用回数及び参加者 1,003回 8,871人 教室 186回 1,825人）	今年度もコロナの為利用者が少し減少したが通常利用に戻りつつあります。当協議会の拠点として、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。高齢者、地域の方々どなたでも気軽に利用できるプラザにしたいと考えております。	幅広い年齢層の方々を対象とした教室等を開講し、利用者も増加傾向にあり、地域住民に交流の機会を創出しているものと認識。	総務課 自治振興費	
きたてしまプラザまつり事業	50	補助金	50	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	北豊島地域コミュニティ推進協議会活動状況PRの場として令和4年11月26日に開催予定としていましたが、市内において新型コロナ陽性者が増加した為中止しました。再度、令和5年3月開催計画を立てましたが、新型コロナ陽性者減少の見通しがたらず、令和5年1月部会会議にて3月開催も中止しました。	新型コロナ禍の為中止しました。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費	
環境美化ウォーキング事業	34	補助金	34	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内の環境改善の為、地域を分割しゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、「ゴミの発生場所と分析」を実施！ゴミ撲滅美化活動と健康・地域交流を行う。地域住民と協力、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。＜コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第＞	本年度の「環境美化ウォーキング事業」は1回の実施となる。実施日・第1回目9月は＜中止＞、第2回目R5/3/5は「荘園地区」にて実施。計画変更の理由はコロナ対策が最大の要因である。＜実施要領＞コロナウイルス対策をした上で荘園地区にて実施。＜消毒・検温・手袋（ビニール+軍手）、不織布マスク、ソーシャルディスタンス＞を徹底。53人の参加（コロナ対応の為人数制限）。「実施時の目標」…活動浸透活動の効果確認！！ウォーキングしながらゴミを拾い、「ゴミ分析データ表作成と啓蒙（市発行）看板の設置」を重点的に、環境にやさしい街づくりを目指しゴミを減らす活動に取り組みました。	ウォーキングにより、・気持ち・見る目の変化・四季の変化、地域の変化を感じる。 ☆コロナ対策はそれなりに実行し十分な効果は得た。 ・小学生の参加により継続性を期待したが、次回へ持ち越します。	・コロナ対応に適した事業活動を計画する。 ・子供～高齢者まで、安全で安心な活動を立案し継続を心がける。	美化活動と健康を融合させた効果的な活動として評価。 感染症対策も徹底した上で実施されたものと認識。	環境政策課 自治振興費	
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	ウイルスの影響時にも対応し、楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいエコクッキングスタイルの講習会を開催する。	「第八回目エコクッキング」1回/年間 計画＜キッチンからできる地球への思いやり＞をテーマに、毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、「アレンジレシピで効率よく使いこなし、色々な工夫で無駄をなくしましょう！！」をテーマに開催し、各家庭・地域への拡散期待。 ＜コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第＞にて実施の可否決定	本年度の【コロナ拡散状況を見て】計画（1回/年）→R4.6/12に実施！！ ＜実施への状況確認と対策＞ ＜消毒・検温（記録有）・手袋（ビニール）、不織布マスク、ソーシャルディスタンス＞の徹底と「過去のコロナワクチン接種状況確認」を行う。 （参加者）16名+講師2名 ※①ソーシャルディスタンス（1席開け）、②換気（窓・換気扇）対策の徹底。③二酸化炭素感知装置の設置（850ppmを上限とする）し監視する。	「食材の調達～調理～食事時の努力～後片付け」まで一貫した、エコロジーを身をもって実践。	日頃何気なくやっている事であるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらう。季節感を考慮してもらおう。『継続が重要課題』である。	工夫をこらした企画・運営がされており、楽しみながら食品ロスなどの環境問題を考える機会を設けているものと認識。	環境政策課 自治振興費	
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	コロナ感染防止の為中止 日常はあまり考えることはしない	健康について考えるようになる	今後の生活を考えるようになる	年齢層も考えた講座を考える	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	地域支援課 自治振興費	
子育て支援事業	544	補助金	544	あそびの広場（年間45回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者ととて語り合う。	コロナウイルス感染対策の為、ランチタイム、おやつタイムを中止しました。ベビーマッサージは今年度から毎月第2木曜10時半～11時半に再開しました。 あそびの広場は、午前の部（10時～12時）「10組」午後の部（13時～15時）「10組」の予約制で実施しました。	午後の利用者は減りましたが午前中の利用者は組数限定の予約制でも毎週木曜日を楽しみに集まり、親同士の情報交換の場になっていました。	子育て中のお母さん達の情報交換の場所だけでなく、子育ての悩みを一緒に考え合うようになり、気軽に今困っている事を話せる場になっていました。	通っていた子ども達が3才になり、子ども園に通いはじめたために、参加者が減少しました。ベビーマッサージを再開し、新規参加者が増えましたが、1才になったら働くお母さんが多く、ロケットキッズ利用者増加には繋がらず、新規参加者を増やすことが課題です。	親子の交流の場として地域に定着しているものと認識。地域の社会資源を発掘・活用しながら、新規の方の参加を促すような取組を期待する。	子育て支援課 自治振興費	
北豊島地域花いっぱい整備事業	110	補助金	110	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。また北小生が育てた花を地域の施設に配布し、地域全体に潤いをもたらす。	③豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、四季の変化を体感してもらおう。継続する事が重要。地球温暖化の影響による暑さ対策にも効果あり。 ④北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設（共同利用施設高齢者介護施設等）に配布し地域全体に憩いを持たせたい。 ＜コロナの猛威収まらず、状況確認対策次第＞	＜コロナ対策にて、防止可と判断（例、検温・マスク・消毒。他）＞し実施 ③6/19、11/26の2回/年 実施場所…豊島北二丁目公園 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、30～40人で花壇に季節にあった草花を植替え、いやしを与え楽しんで頂く為実施。 ④10/21（花植え）、12/9（花 出陣式）の2度作業/年北小3年生の皆さんと苗を植え配布しました。春には街に花を咲かせてくれるでしょう。	地域・季節における美化活動への意識付けをPR。花の植え方・育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる心に潤いを与え、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれ。自動散水システム導入効果絶大。花泥棒も多少減り、徐々に効果が出てきた模様です。	子供～高齢者まで、安心して和やかに過ごせる場所の確保。 年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を頂く必要があります。 近隣の方の積極参加を頂ける様努力する。花泥棒減少、今後も注意要。 北小の生徒さんが育てた花を北小構内及び地域施設にもっと増やしたい。	地域住民と園芸高校との交流が深まっていくことで、美化活動への意識向上と共に憩いの場を提供出来ている。	公園みどり課 自治振興費	
計	5,760			事業提案限度額	7,126千円	次年度繰越金額	1,366千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

くれば地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
	交付金	補助金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
青バト隊パトロール活動事業	332	305	9 18 305 修繕料 保険料 補助金 青バト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青バトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青バト駐車場を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができています。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	コロナ禍により実施できていなかった事業もいくつか再開され、地域コミュニティの醸成に寄与したものと評価するところ。地域で購入された備品については、自治会や学校と連携のうえ、適切な管理をお願いするもの。	今後も引き続きパトロール活動の強化に努めていただきたい	危機管理課 一般管理費 総務課 財産管理費
地域内会館設備改修事業①	481	481	修繕料 481 地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。(桃園会館)	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。			トイレの洋式化により、会館の利便性が向上したものと評価。会館利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	288	288	修繕料 288 老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができる。今後も広報活動の充実を図る。			広報範囲が広がったものと評価。適切な維持管理をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館設備改修事業②	513	513	修繕料 513 地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。(満寿美会館)	地域内における会館施設の設備が老朽化している。	地域内における会館施設の設備を改修し地域住民の利便性を向上させることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した設備を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していきたい。			利用者の利便性が向上し、利用者の満足度も向上したものと認識。	総務課 財産管理費
街路灯強化事業	106	90	16 90 電気使用料 修繕料 夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができるとの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。			街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
道路安全対策事業①	1,308	1,308	修繕料 1,308 歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、安全性が向上した。	カーブミラーの設置により、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な個所が点在しているので、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。			道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課 交通対策費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	354	354	校用器具費 354 呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化している。正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れ「全国大会金賞」を受賞した。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えすることがこれからも必要と思われる。			使用可能な楽器の一層の充実により、児童の演奏技術の向上に繋がった。	教育総務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	350	350	行事報償金 350 地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償報奨金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化するように努める。			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	517	517	補助金 517 地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を深めている。	コロナ禍ではあったが、1回発行出来た。	地域コミュニティの事業を報告できた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			優しい色使いで、文字のサイズも大きく見やすい誌面になっている。引き続き、内容の充実した誌面作りを行ってほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費
合同防災訓練事業	183	183	補助金 183 不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校の校庭で、合同防災訓練（8自治会）を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越える事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。			災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	330	330	補助金 330 近年多発する災害等に備えるため備品を購入する。	災害等に備え、地域住民の安全対策を行いたい。	災害対策としてガストープを備えた。	もしもの時に対応できるように備えが出来、地域住民に少しでも安心してもらえた。	災害時に必要な備品をそろえていきたい。			今後の災害時に備えた備品整備を評価	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	2,355	2,355	補助金 2,355 呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、「WiFiの導入」など地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			シルバー人材センターを活用して、会館管理にも寄与いただいている。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	404	404	補助金 404 地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内にある会館施設の備品が老朽化していて安全面で不安がある。	共同利用施設の老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、装備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。			地域利用者の視点から有用な備品整備が図れたもの。会館利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課 自治振興費
くれば祭り開催事業	600	600	補助金 600 くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的にPTAと合同で祭りを開催する。	呉服小学校において、くれば校区の住民である子供からお年寄りまで楽しめるイベントを開催した。地元の参加団体を募集し、店舗とステージ以外にも無料の子供用遊具を設置。	くれば小学校区の子供から大人まで参加してもらい大盛況だった。ステージや遊具は無料、店舗は格安の値段だったので好評だった。またワークショップも開催 新しい試みで大盛況だった。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。			ステージ、遊具使用の無料など限りある予算の中で、努力いただいたものと認識。	空港・観光課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

リユース活動事業	60	補助金	60	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする	とても好評で、来年もぜひ開いてほしいという言葉を受けた。	地域分権の子育て世代への認知度が上がった。	どうしても衣類が余ってしまうので余った分を施設等へ寄付したい。	特に子育て世代に有効なリユース事業である。対象世代のコミュニティ形成にも有効と考える。	環境政策課 自治振興費	
道路安全対策事業②	330	補助金	330	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	コロナ禍のため実施できなかった。		地域内には、まだまだ危ない箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	土木管理課 自治振興費	
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	140	補助金	140	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々から好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。	花を育てる活動で感性を育み、且つ地域と学校との更なる連携強化を図りたい。	公園みどり課 自治振興費	
地域内学校園設備支援事業	608	補助金	608	地域内の学校園において開催される各種地域イベントにて必要となる備品の整備を行う。	地域内の学校園においてイベントや行事などで必要な備品が不足していた。	必要な備品の整備を行う。	学校関係者だけでなくPTAや地域の人にとって利便性が増した。	安心して教育が受けられる環境を整えていきたい。	各種行事に必要な備品を整備することにより、学校関係者だけでなく地域の人にとっての利便性が増した。	教育総務課 自治振興費	
キッズランド支援事業	30	補助金	30	呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。	地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。 要望が市民からあった。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		今後も支援していく。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費	
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	コロナ禍のため、実施出来なかった。		若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 自治振興費	
計	9,479			事業提案限度額	10,299千円	次年度繰越金額	820千円				

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	57	電気使用料 2 機器借上料 52 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	一部死角になり不安全、及び、犯罪者の逃走経路となるのではとの指摘及び、要望有り。	犯罪者の逃走経路の減少及び、設置していると言うだけで、犯罪件数の減少、並びに犯罪者の早期逮捕につながる情報が集まりやすくなった。	設置個所が増えたことによる犯罪抑止効果ありと判断します。	現状を継続しつつ、人任せの安全対策ではなく、自らの防犯意識向上を促し、各家庭への防犯装置の充実（支援/援助）を図り、防犯設備の設置等、見張り役の増強の見直し検討が必要であると考え。又、これからは、防犯設置機材として、防犯カメラ/車載カメラ/ドローン、緊急連絡手段として、放送設備（ドローンの有効活用含め）等の在り方を再度重点的に提案し、検討及び対応を考えたいと思います。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	本年度も地域内の安全・安心の向上に関する多くの事業が実施され貢献されたことに加え、コロナ禍により行えていなかったイベントも再開され、地域のにぎわいの創出にも寄与されたものと評価するところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	519	電気使用料 29 設備保守点検委託料 58 機器借上料 432	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点等の一部が死角になり、安全面に難あり、及び、不審者/犯罪者の逃走経路となるのでは等の指摘があり、継続を要望。	設置個所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目（者）による長期休暇（夏休み/大型連休）等の不在期間中の見守りが可能となる為、継続を要望する。	設置個所が増えたことによる各犯罪抑止効果ありと判断します。…継続	リースのような、安価な設投で、管理費の低減を図る。又、家庭用防犯装置費用支援/援助策を提案し、各家庭への防犯装置設置希望者を募り、自らの防犯意識向上を促進させ、地域一丸となった防犯対策を実施する。又、他地域（行政）が取り組んでいるドローン等（ドローンに替わる代替品…模索中）を活用した防災/防犯体制及び地区放送（全戸への緊急避難速報/警報）も再度提案/検討し維持管理（資格免許/教育含め）の促進。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費	
地域掲示板設置事業	58	修繕料 58	老朽化した既存の掲示板の補修を行い、地域団体と共に使用出来るようにする。	石橋地域コミュニティ内にある掲示板が長年の経時変化や劣化、水漏れにより痛みがひどくなっていた。	防水対策やマグネット化により、掲示しやすく水漏れの恐れが無くなった。	水漏れによる掲示物の痛みが無く安心である。地域ボランティアや石橋コミュニティ推進協議会の活動、お知らせ等を広く周知することが出来た。	掲示物の貼付けや交換が、もっと簡単に素早く出来ることが望ましい。		掲示板のマグネット化により利便性が向上したものの、一層の活用を期待。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域行事等活動促進事業	450	行事報償金 450	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設営及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	当事業も地域内の活動が浸透しており、3年振りの実施有無やコロナ感染状況を杞憂する声を寄せられて、厳しい状況が続く中、感染防止の対策を協議して、期待に応えた。	公園入口で手、指の消毒等3密を実施した。調理模擬店を止め市販の個別食品とゲーム類に制約して参加者から若干の不満も聞かれたが安全意識を喚起することで、大きな事故もなく終えられた。参加者約1800人	運営を手伝う人、石橋小、中学校の先生方や模擬店に参加する団体、参加者が年々増加し、盛大に行われコミュニティ活動行事が充実した。	参加者の多くが自転車で来られるため、狭い公園に駐輪する余裕が無いため、駐輪場の確保が使用禁止を図る必要がある。	コロナ対策もすっかりされており、模擬店の参加者も増加し、コミュニティの意識が醸成されているものと認識。	空港・観光課 自治振興費		
公園整備事業①	4,800	修繕料 4,800	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、石橋公園の路面舗装を行う。	石橋公園の進入路が、長年の使用により表面が劣化し、通行時に転倒の恐れがあった。	公園が憩いの場・遊びの場・集合の場として利用できる公園として、地域住民が安心して利用できるようになった。	公園の進入路が整備されたことにより、お年寄りや乳母車を使って、安心して公園を利用できるようになった。	今後も施設の経年劣化が考えられ、注意深く監視してゆくことが求められる。	園路舗装により、以前までの凹凸が解消され、小さい子どもや、高齢者等が安心して通行できるようになった。	公園みどり課 公園費		
公園整備事業②	493	修繕料 493	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、石橋公園に散水栓を設置する。	公園内の花壇に散水をするための水を運ぶのに時間を要していた。	公園の花壇の近くに散水栓を設置したことにより、効率的に散水が可能になった。	花壇の散水に係る時間が短縮された。	公園内に設置されているプランターにおいても、ホースによる散水ができる方法を検討する必要がある。	散水設置により、地域の緑への関心が高まる等、良い傾向にある。水の出しっぱなしには気をつける必要あり。	公園みどり課 公園費		
市民レクリエーション大会事業	250	行事報償金 250	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。	当事業も地域住民も市民運動会として毎年10月第2日曜日に開催されることが浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかけた。	制約があったが3年振りに開催されたが多くの人参加して大盛況で大きな事故もなく終えることが出来た。	石橋校区スポーツ振興会を中心に各団体間の連携がスムーズになり、協働する参加者が年々増加し、各人間の繋がりが太くなった。	当運動会も長年継続的に開催されているがプログラム種目に新鮮さを図り、より参加意欲を盛り立てたい。スポーツ推進委員の存在、活用方法を図る必要がある。	地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費		
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティ各部会が行う事業や関心のあ課題を住民に周知することで、コミュニティの存在と役割を知ってもらおう事業。	年間2回のコミュニティ紙の発行事業で、新型コロナ禍における旭丘、井口堂及び石橋における活動内容と地域性を広く伝達できた。	新型コロナ禍に関係したこと、地域ボランティアの活動、学校と地域のつながり、石橋コミュニティ推進協議会の活動等を広く周知することが出来た。	新型コロナ禍の影響が低下した後のボランティア活動の状況、敬老の里プロジェクトの今後、等の記事を扱いたい。	さまざまな情報がバランスよくまとめられていてわかりやすい。また、取組紹介だけでなく、石橋地域のおすすめスポットの案内なども行っており、興味深い内容になっている。今後も幅広い内容の紹介を期待している。	広報シティプロモーション課 自治振興費		
避難行動要支援者対策事業	300	補助金 300	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	引き続きの事業でもできています	地区の要支援者の近況や所在確認した	現況調査も引き続き行い、要支援者の方々は安心して生活してもらっている。担当の要支援者の避難計画書を訪問先ですぐ取り出せるよう、仕分けできるファイルを購入し 担当者の負担を軽減した。	コロナはまだ安心できる状況ではないが、年度後半では訪問して対面で現況調査も少しずつできるようになった。ただ、この事業への周知が進んでおらず、同意書を提出されているにも関わらず、辞退される方もいるので、行政の面からも周知させてもらえると、スムーズな調査ができるのではないか。	協議会を立上げ、事業を実施していただいている功績を非常に大きく評価し、仕分けファイルの導入により、担当者の負担軽減を図ったことを評価するとともに、引き続きコロナ禍での対応ではあるが継続的な事業の実施に期待	危機管理課 自治振興費		

地域防災体制強化等事業	979	補助金	979	常日頃から防災意識を高めるため、地域の防災マップを作成し各戸に配布する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に何が出来るか、何をすべきか、緊急時の対応（連絡含む）方法、又、新型コロナウイルス等の感染症が発生した場合の避難及び避難所での対応方法等についての新しい知識習得が必要不可欠である。	・1部(午前の部)：石橋小学校(5年生)約105名 事前に各教室にてDVD『釜石の奇跡』を鑑賞後、体育館へ集合、簡易間仕切り/簡易ベッドの組立及び中庭にて消火器の使用法体験 ・2部(午後の部)：石橋中学校(2年生)約125名 前日の雨により運動場のコンディションが悪く、各教室にて、ZOOMを活用したグループ討議『テーマ：大型台風が池田市に直撃の予報、皆さんどう考えますか』へ変更、各自、意見を出し合い、考える防災学習を実施。 又、備品購入に於いては、各イベント等実施時に使用していた拡声器が(不調)故障したため、野外でも簡単に使用できる物品を急遽購入変更、及び、当初から予定していた避難所マップ(石橋校区用)作成/配布(選挙等の関係も有り、配布時期が4月へずれ込む)、その他の購入品は再度メンバーと打ち合わせを実施し、購入見送り(様子見)とした。	1部(午前の部)の小学生対象については、DVD『釜石の奇跡』を見て、自然の驚異、判断等、何かを感じ取ってもらえたと思います。又、簡易間仕切り/簡易ベッドの組立及び中庭にて消火器の使用法体験をすることにより、普段できないことが出来たので、よい経験となった。 2部(午後の部)の中学校対象に於いては、新しい取組みとして、ZOOMを活用したグループ討議『テーマ：大型台風が池田市に直撃の予報、皆さんどう考えますか』とし、各自、意見を出し合い、考える防災学習が出来、自分の住んでいるところの状況での対応方法等見直す機会が出来た。 又、避難所マップについては、自分はどこへ避難するのか、何を日頃から準備をしておけば良いか等の家族内での相談(見直し)のきっかけが出来た。	各種の災害時(発生時間)に即対応が出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。学校の設備に頼らず、公園等にて何も無い場所でも一から炊き出し等が可能かやってみる価値あり。又、傷の手当て、身近にある品物を応用し、簡単に出来る方法等も織り込んでの実施としたい。何事も実践(経験)を積んで、少しずつ自分の事は自分でやる(創意工夫)、他人を助けられる余裕を持った育成に努める必要あり。 又、最新情報入手、迅速な展開及び共有方法の手段検討が必要を実感する。	地域の防災マップの作成・配布による防災意識向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品運営事業	400	補助金	400	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機設置前は各団体が各自でコピー等でコピー印刷していたり、多量の場合は小学校等で印刷機を借りて印刷していたがかなりの費用や時間をとっていた。	コピー印刷機設置後は各団体が会館でチラシ、レジメ等印刷する事が出来、非常に便利になった	費用、時間ともに短縮軽減出来、各団体や地域住民に多に利益をもたらした。 特に枚数が多い場合、他の人に迷惑をかけずにすみ心穏やかに仕事が出来る。	設置場所が会館の二階の廊下に置いているため音が他の使用者に聞こえ迷惑をかけている。ゆくゆくは部屋の中に納めてほしい。	設置場所については、早期の解決に向けてあらためて検討を求めているもの。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域活動支援事業	200	補助金	200	地域の行事の備品運搬等の支援を行う。	納涼大会等の準備、後片付けの際、備品や機材を運搬するのに個人所有の軽トラックを借りていた。	個人所有なので今まで借りられない時もあったが、レンタカーにすることによって、確実に使用できた。	石橋小学校、中学校などから石橋公園へ備品や機材の運搬がはかどり、スムーズに準備後片付けが出来た。	今まで個人所有の車を無償でお借りしていたが、車の所有者と運転者が異なる場合、事故が起こった時の保険保証が車の運転者個人になってしまうので、出来るだけレンタカーを使用したい。	一部への負担の集中が解消され、イベントの円滑な運営に寄与したものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費	
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	一般のゴミと一緒に燃却されているペットボトルキャップを回収して再加工により新製品になることの意識が低い	原油価格の値上り・資源を生かしていくことを地域住民に知ってもらい、回収事業の更なる理解を深めている。	キャップの色別を東山作業所中心に、自立支援事業を後おししている。	・キャップリサイクル品目を増やす。 ・石橋地区から市内各小・中学校への参加を計る ・回収ボックス設置の増設と回収ボランティアの増員	活動の広がりにより、リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。	環境政策課 自治振興費	
地域美化整備事業①	80	補助金	80	美しい街を目指すため、啓発ポスター等を作成し、呼びかけを行い、地域住民のモラルの向上を図る。	継続して地域の街路や公園に花をうえ、美しい街づくりを行っている。	プランターに花を植えていただくための花を配布し、地域の皆さんに心安らぐ空間を作った。また、「SDGsってなに」というチラシを配布し、きれいな地球環境を次世代に残す啓発を行った。	地域の皆さんに心安らぐ場所づくりになった。地域の皆さんの環境に対するモラル向上につながった。	植栽した花を長期にわたって維持することが難しいので、花を選定するときに、注意する必要がある。	美化意識やSDGsへの意識向上に繋がっていると認識。	環境政策課 自治振興費	
交通安全モラル啓発事業	71	補助金	71	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	一旦停止無視/スピードの出し過ぎ/無灯火ながら(スマホ操作他)運転等、手本となる成人が違反行為が減らない現状、及び、自転車転倒時の頭部損傷による死亡率の上昇を踏まえて、ヘルメットの着用努力義務化等如何に順守出来るか。	本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止等が縮小傾向になり、幾分か各種行事(イベント)等の実施が可能となったものの、集客増員となるようなイベント内容がまとまらず、中止とさせて頂いた。	中止により、評価できず。	集客力(集客人員UP)向上をめざし、社協との連携を図り、開催件数を増やしながらか、全体の集客力向上を目指す。 又、如何に自転車運転時のヘルメット着用率を上げる施策を早急に練り直し、有意義(魅力)あるイベント内容としていきたい。	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	交通道路課 自治振興費	
地域美化整備事業②	150	補助金	150	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、花を育てて、保育所、学校、各施設にプランターの花を贈呈する。	継続して地域の街路や公園に花を植え、美しい街づくりを行っている。	公園の花壇の整備を行い、公園を利用する皆さんに心安らぐ空間づくりになった。	生徒さんと、ペットボトルキャップで作成したプランターに花を植え、身の回りに花を楽しむ機会を与え、地域美化の考えを知ってもらおうと共に資源の大切さを確認した。	公園の花壇の散水についての効率化を図る必要がある。	水やり対策の検討は必要だが、花が溢れる訪れやすい公園になった。	公園みどり課 自治振興費	
三世代交流事業	300	補助金	300	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	コロナ感染状況を把握し、3密を守ることで開催可との結果を出し、模擬店の内容を協議して調理食べ物を止めた。天気予報も60%可能と準備を進めたが、学校や協議会の中から順延が望ましいとの意見を取り入れた。	順延開催だが、池田高校の吹奏楽部の演奏、ゲーム主体の模擬店に子ども達が喜び、今回初めて組み込んだ幼児、年少者の花火と打ち上げ、仕掛け花火に参加者が大いに盛り上がったフェスティバルとなり来年度も開催要望を得た。	模擬店、花火、アトラクションとスタッフが一体で思案し、協議して、開催出来参加者一同が感激した。	来場者の多くが自転車で来るため、狭い場所でも混雑し整理に多くの人を配置する必要があり、イベントへの自転車自粛要請を進めたい。	様々な世代の方が訪れることで、コロナ禍で失われていた地域どうしの交流を図ることができた。	教育センター 自治振興費	
計	9,637			事業提案限度額 12,427千円 次年度繰越金額 2,790千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課 自治振興費	
防犯カメラ新規設置事業	57	電気使用料 2 機器借上料 52 電柱等共架料 3	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	校区内に22ヶ所の防犯カメラが設置されていた。	新たに1ヶ所の防犯カメラを設置し、全23ヶ所となった。	防犯カメラは犯罪被害の未然防止や犯罪の予防の有用性が認められている。地域の安全で安心な暮らしの実現を目指すために有効と考える。	設置を増やしてほしいとの地域ニーズがあるが、別途、市が設置済の防犯カメラもあり、撮影範囲がかわらないように、調整が必要である。また毎年の維持管理費用が増えていることが課題である。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	いち早くコロナ前に活動を戻そうと、感染対策にも気を配りながら、各事業を実施されたものと認識。また協議会の公式LINEを開設され情報発信に努めるなど、先駆的な取組みを見せているものと評価するところ。	地域防犯のため、積極的に防犯カメラを設置いただいている点を評価するとともに、費用対効果を勘案した管理運用を望む	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	1,500	電気使用料 58 機器借上料1,442	防犯カメラの維持管理を行う。	22台の防犯カメラを管理している。	新たに1台増えて、全23台となった。	—	本維持管理費用が令和4年提案事業の提案額の約28%を占めていたことが課題である。		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費	
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	継続して緊急通報装置を管理している。	—	小学校や中学校への主要な通学路にあり、安心感があるとともに犯罪の抑止効果が期待できる。			緊急通報装置の運用が、今後、犯罪抑制に繋がることを期待	危機管理課 自治振興費	
地域防災体強化等事業	560	器具費 347 補助金 213	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。また地域の防災マップを作成する。	昨年度から本協議会所有の防災備品の点検を行い、交換が必要な備品や不足している備品をリストアップした。 通学路に設置の「飛び出し坊や」の多くは、破損し、設置位置についても見直しが必要であった。	ガスボンベ式発電機を3台、購入した。 防災備品として投光器、飛び出し坊や、カセットボンベ式を購入した。 また五月丘地域版「我が家の防災マップ」を作成し、校区内に全戸配布した。	地域内の自主防災組織が所有している防災備品のリストをそれぞれが作成し、現在、地域内にある全ての防災倉庫の備品リストを整備している。本協議会所有の備品の多くは五月丘小学校内の防災倉庫に集中しているが、発電機は避難場所となる体育館内に置き、避難時に活用できる。 新しい「飛び出し坊や」が地域内に9基設置され、児童だけでなく大人にとっても注意喚起でき、安全なまちづくりに取り組んでいる。 「我が家の防災マップ」は各家庭で完成させるタイプのマップで、地域住民が防災への備えについて家族と話し合い、考えるツールとして活用されたい。	消耗品等の入れ替えを行っても、現状は倉庫の中が備品で一杯であり、保管場所の拡張が課題である。 引き続き、防災備品を整備する。		防災マップの作成・配布及び災害時に備えた備品整備を評価するとともに、今後もローリングストックや適切な備品の保管を望む	危機管理課 災害対策費	
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	974	機器借上料 132 パフォーマンス料 65 インターネット使用料 127 補助金 650	地域コミュニティ推進協議会の事務所と、会員・地域住民が気軽に集える拠点の運営を行う。	継続して本協議会事務所を管理している。 2019年8月に本協議会事務所を開設した。さらに2020年9月、本協議会事務所を、「五月丘まちづくりプラザ」（略称：まちプラ）として地域に開いた。	同上。 まちプラは、地域住民が自由に立ち寄れるサロンとして、地域情報を掲示するまちの情報センターとして、また地域に関するご意見や相談事などを直接伝えることのできる相談所としての機能を有する。	共同利用施設五月丘会館内にあるため、閉館日に入館できず、本事務所として使用できなくなり、不便である。 まちプラに関する広報活動について、公式LINEを使った発信をこの事業としてはできていない。			コロナ禍の状況下にあっても、コミュニティ機能の維持に寄与しているものと認識。適切な運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課 自治振興費	
AED管理事業	19	消耗品費 19	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	校区内に3箇所のAEDを管理している。	五月丘会館とセブンイレブンに設置のAEDのバッテリーとパッドを交換した。	これまで使用実績は1度もない。安心感があると思っていたが、コロナ禍にあり、触れたくないという声も聞く。	機器の更新時期が近づいており、3箇所の今後について検討し、令和5年度からは、五月丘会館のAEDのみ更新することを決めた。		消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設等にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため、今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課 保健衛生総務費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援しているが、この3年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた。	開催時間を短縮し、午前のみ実施。接触型の協議を避けるなど感染対策に工夫を凝らしながら実施。	3年ぶりの開催で、子ども達から大人まで楽しく競技に参加できた大会となった。	コロナと共存するイベント運営。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民どうしの交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	248	補助金 248	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	本協議会の活動内容を地域住民に周知するとともに、地域住民に必要な情報を発信するために、年に2回、まちづくり通信(広報誌)を発行し、全戸配布をしている。	上記の通り。	コロナ禍で3年ぶりに実施した交流事業も多く、地域住民に周知した。また、今年度は防災への本協議会の取り組みについて情報発信を行った。	幅広い層に情報発信し、本協議会の認知度を上げるため、従来の紙による配付に加えて、公式LINEをつくった。若い世代向けにもSNS利用を取り入れていく。		写真を多く使って、わかりやすくまとめられている。今後も公式LINEの活用で幅広い世代の住民への情報発信を期待している。	広報シティプロモーション課 自治振興費	
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織また属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘1丁目・アルビス五月ヶ丘・五月丘5丁目の自主防災組織主催の合同防災訓練を支援し、本協議会も自主防災組織のない地域住民の受け皿となり参加している。	5月に合同防災訓練を実施。3年ぶりの開催となった。	災害への備え、防災についての知識、そして防災に強いまちづくりを目指し、地域の方々が共助できる関係構築の重要性を学んだ。	本校区は自治会の加入率が低く、自主防災組織がない地域に住む住民が多いことが特徴で、本協議会が今後もこれら地域の窓口となり、支援を検討する必要がある。		災害時における地域の防災力向上に期待するとともに、地域住民を巻き込んだ活動は、共助の推進に大きく貢献していることを評価	危機管理課 自治振興費	
コミュニティサロン設置事業	280	補助金 280	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	毎月2回、コミュニティカフェ五月丘(C.G.S.)を開催している。	コロナ前の通常開催に戻した。イベントも少しずつ再開している。	2012年度から本事業を始めて10年となる。地域に認知され、住民の憩いや交流の場として定着している。尚、会場内には電子ピアノを置いて、誰でも自由に演奏できる「サロンピアノ」としての利用も好評を得ている。	地域の利用者の中にはコロナ禍でお亡くなりになった方や外出制限で足が遠のいた方も多く、新規のお客さんを増やしていく必要があり、本協議会の公式LINEを使って呼び掛けている。		コロナ禍の難しい状況の中でも、工夫をしながらコミュニティのつながり強化に取り組んでいるものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

盆踊り大会支援事業	250	補助金	250	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	校区スポーツ振興会主催の大会を支援している。	3年ぶりに盆踊り大会が開催。	本校区は地域イベントの少ない地域である。本大会は子どもからお年寄りまで楽しめる、地域にとって貴重なおまつりである。本協議会としても地域の他団体と交流できるイベントであり、意義がある。	特になし。	3年ぶりの開催となった中、たくさんの来場者があったと聞き及んでいる。引き続き、地域の交流の場として活性化していただきたい。	空港・観光課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	400	補助金	400	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	毎年、五月丘小学校で実施。内容は模擬店、ステージ、フリーマーケット、スポーツゲーム等。	3年ぶりに開催できた。PTAバザーと同時開催とした。	本事業は、子どもからお年寄りまで幅広い世代が楽しめるイベントで、地域住民が交流できる良い機会となっている。地域の諸団体の協力を得て、共に取り組んでいることに意義がある。また地域の学校（渋谷中学校、渋谷高校）と連携していることも重要である。	開催日の検討。4年ぶりに5月開催としたが、小学校・中学校、渋谷高校、ステージに出演されるジュニアの皆さんが通う学校の行事予定の確認が必要。	地域の学校や自治会と連携し、老若男女問わず楽しめるイベントの実施に取り組んでいる点が評価できる。	空港・観光課 自治振興費
高齢者等の居場所づくり事業	220	補助金	220	独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。	毎月第3日曜日に、「おしゃべり広場」を開催している。	10月からコロナ前の通常開催に戻した。	12月に実施したクリスマス会には多くの地域の方が来場され、ビンゴゲームに演奏会、楽しいおしゃべり等、大いに盛り上がり、楽しんでいただいた。コロナ禍であるからこそ、人々が交流できる場が必要で、それを求めていることが実感できた。	地域の利用者の中にはコロナ禍でお亡くなりになった方や外出制限で足が遠のいた方も多く、新規のお客さんを増やしていく必要があり、本協議会の公式LINEを使って呼び掛けている。	外出を控えがちな高齢者にとって貴重な交流の場となっている。今後、より多くの方に利用されることを期待する。	高齢・福祉総務課 自治振興費
花プロジェクト事業	150	補助金	150	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	五月丘小学校の授業の一環として、また渋谷中学校のクラブ活動の一環として、年2回実施。	五月丘小・渋谷中学校教職員、PTA、地域住民の有志が協力して、子ども達と一緒に苗の植え込みを実施(小学校1000株、中学校800株)。	子ども達が育てた花を地域の公共の場に植えて、街並みに花を添える。学校と地域が連携して緑豊かなまちづくりに取り組んでいる。	地域に配る花の数を増やしたい。校区が緑豊かなまちとなれるように目指したい。	引き続き地域住民と教育現場が連携し、花に溢れた街づくりと子供の健全育成に役立てていく。	公園みどり課 自治振興費
イベント運営事業	270	補助金	270	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	グラウンドゴルフ(年2回)、里山教室(年2回)、五月山ハイキング、卓球教室を開催。	11月に里山教室、5月と10月にグラウンドゴルフ大会、12月に赤ちゃん先生を開催。五月山ハイキングと卓球教室は、校区スポーツ振興会主催のイベントでこれを支援。	グラウンドゴルフ大会は、外出制限で運動不足になりがちな地域住民が汗を流し、スポーツを通じて交流する貴重な機会となった。里山教室は、雨天の為、五月山での間伐作業は実施できなかったが、子ども達には五月山の自然や里山の大切さを伝えた。赤ちゃん先生は、子育て中の母親を支援するために、同じ子育て中の母親との交流や市内の様々な子育て支援の情報提供の他、育児に関する相談の場も設けた。	赤ちゃん先生は、校区内の親子の参加を増やすための取り組みが必要。	イベント開催で住民間の親睦をより一層図られていくよう期待する。	生涯学習推進課 自治振興費
計	5,279			事業提案限度額 7,738千円 次年度繰越金額 2,459千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							コミュニティ推進課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	711	電気使用料 29 機器借上料 682	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	当地区には既設6台、リース4台	カメラ設置に係る維持管理の為、定期点検を実施 正確な情報提供に努めた	必要に応じ、カメラの開示を実施した	継続	各部会（ブロック別）でまとめられたものを協議会で決定する。	本年度は例年と比べ、全体での事業提案額が大変少なかったが、全ての提案事業が実施されたもの。基金残高が大きくっており、今後の計画的な事業展望をしっかりと地域内でご議論いただきたいもの。	危機管理課自治振興費 コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業①	15	清掃委託料 15	地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（空港会館）	日常の軽易な清掃は実施している。	年一回の業者の作業の実施を委託した。	作業の併用により会館の美化は保っている。	引き続き実施していく		会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域内会館清掃事業②	106	清掃委託料 106	住み込みの管理人のいない地域内会館の清掃を行うことで、会館を清潔に保つ。（石橋会館）	日常の軽易な清掃は実施している。	年3回業者に作業を委託している。	作業の併用により会館の美化は保っている。	引き続き実施していく		会館の適切な維持管理に寄与。利用者の増加につながることを期待。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域内会館設備改修事業	481	修繕料 437 補助金 44	地域内会館の設備改修を行い、利便性を向上させる。（石橋会館）	石橋会館廊下部分に手摺が無い 石橋会館門扉部分の排水が狭い為雨水排水が溜まる為	石橋会館廊下（片側）に手摺を設置 雨水排水側溝の拡張	廊下に手摺を設置し、利用者が安全に使用できる様になった 排水効率が向上して水が溜まらなくなった	会館利便性の向上・維持管理 会館の維持・管理		地域利用者、また指定管理者の視点から有効な会館改修が図られたもの。	コミュニティ推進課地域集会所施設管理費
地域掲示板設置事業	136	修繕料 136	老朽化した既存の掲示板の補修を行い、地域団体と共に使用出来るようにする。	掲示板の老朽化・使い勝手が悪い	掲示板をマグネット対応の板に取替る	掲示板の利用が向上し、地域団体とともに使用できるようになった。	老朽化対策		掲示板のマグネット化により利便性が向上した。一層の活用を期待。	コミュニティ推進課自治振興費
AED管理事業	10	消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	AEDの適切な維持管理ができていない	消耗品の交換	常に正常に使用できるようになった。	安定維持管理		消耗品の交換も適切に行い常に正常に使用できるよう管理している。共同利用施設にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課保健衛生総務費
道路安全対策事業	159	修繕料 159	歩行者の安全を確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	見通しの悪い交差点があり、危険。	上記地点にカーブミラーを設置した。	カーブミラーの設置により安全を確保した。	維持管理を継続。		道路反射鏡の設置により交差点通行の安全性が向上した。	土木管理課交通対策費
今井水路改修事業	285	修繕料 285	今井水路がカーブしている場所でゴミが溜まっており、水が止まるとヘドロが乾燥し臭気するため、ゴミ受けフェンスを設置し、清掃しやすい環境をつくる。	今井水路内でゴミがたまりヘドロ等臭気を発する。	河川内に「ゴミ受けフェンス」を設置し、清掃しやすい環境を作る。	ゴミ収集が安易となり効果があった。	継続。		ゴミの回収、維持管理の効率化が図られ、臭気防止など環境改善にも効果があった。	土木管理課用排水対策費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	スポーツ振興を通して地区の事業として地域の親睦に役立っている事業 コミュニケーションの向上を図って行きたい。	コロナ禍の為、事業中止	無し	継続		新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	275	補助金 275	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年間3回発行し、地区内全戸に配布した。	当会の活動状況の理解に寄与した。	継続。		やさしい色合いで親しみやすい誌面になっている。引き続き、写真などを用いた地域住民のためのわかりやすい地域情報誌の作成に努めてほしい。	広報シティプロモーション課自治振興費
地域防災体制強化等事業	197	補助金 197	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。（住吉2丁目新池公園）	自主防災組織への資機材配備が不十分で、有事の際の不安要素がある。	消火器・フリーズドライ食等	防災機材の補充安心安全に寄与する事が可能	維持・管理の継続		災害時に備えた防災資材の補充を評価し、今後の有効性に期待	危機管理課自治振興費
地域内会館管理運営事業	362	補助金 362	地域内会館の管理運営を行い、会館利用者の利便性の向上を図る。	会館フリーWi-Fi設備・コピー機設置の継続	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	会館利用者の利便性の向上に寄与した。	継続。		会館の利便性が向上したものと評価。適切な管理運営をお願いするところ。	コミュニティ推進課自治振興費
地域行事等活動推進事業	165	補助金 165	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	地域で行事を開催し、活動に係る支援を行うことにより地域活性化を図る。	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行うことにより、地域が活性化した。	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行うことにより、地域が活性化した。	継続支援。		地域で開催されるイベントへ支援を行い地域の賑わい創出の一助になったものと認識。	空港・観光課自治振興費
石橋南地域花いっぱい運動支援事業	98	補助金 98	石橋南小学校で花苗を育て、校庭や地域の公園に植え替えることで、まちの緑化を志すボランティアの育成や児童に命の大切さを伝える。	石橋南小学校児童により花苗を育て、校庭や施設、地域公園等に植付ける。	地域の美化を志すボランティア精神の育成と命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	地域の美化を志すボランティア精神の育成と児童に命（花）の大切さを体感させる事に役立った。	継続支援。		継続していくことで、緑化の意識も高まり、ボランティア精神の育成に繋がる。	公園みどり課自治振興費
計	3,300		事業提案限度額 13,311千円	次年度繰越金額 10,011千円						

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
防犯カメラ維持管理事業	722	電気使用料 29 機器借上料 693	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため設置した防犯カメラの維持管理を行う。	運用継続のための維持管理。	問題なく運用している。	住民が安心して生活を送るための一助となっている。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	依然コロナ禍の最中ではあるが、いくつかのイベントが再開され、多くの地域住民の参加もあり、コミュニティのつながりの強化に寄与したものと評価。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
AED管理事業	319	器具費 319	地域内の会館にAEDを設置(更新)し、突然の疾病や事故に対処する。住民には救命講習の受講を呼びかけ万が一に備える。	会館のAEDについて更新時期がきた。	正常に使用できる状態になった。	住民に安心していただける。	屋内にあると閉館時に使えない。	また緑丘小学校とは、ハード・ソフトの両面において連携できているものと認識するところ。	水月児童文化センター設置のAED本体更新を行った。共同利用施設等にAEDを配置することは、多くの住民の安心感を得ることが出来るため、今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
緑丘小学校体育館整備事業	1,310	修繕料 1,310	緑丘小学校の体育館の修繕を行い、子どもたちが安全に遊べるよう整備する。	体育館2階の床がボコボコで子供たちが使えない状態だった。	安全に使用できる状態になった。	キッズランドでも子供たちが怪我を心配することなく遊べるようになった。	宿題などもできるよう机があればよい。	体育館2階の床修繕並びにコンセントを設置することで子供たちが安全に活動を行うことが可能となった。	教育総務課 学校管理費	
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	広報シティプロモーション課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	240	補助金 240	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	コロナの影響で開催されていなかった。	久しぶりの開催であったが、250名程度の参加であった。	ハザードマップの説明などもあり、防災意識を高めていただけたと思う。	効果を出すために、より多くの住民が参加していただけたよう工夫が必要。	災害時における地域の防災力向上に期待	危機管理課 自治振興費	
コミュニティサロン設置事業	170	補助金 170	地域の子どもから大人、高齢者までが集い、共に遊んだり、勉強したりする場を提供する。	大人と子供が同じ輪に入って交流を図る場が少ない。	親子で同じ空間でダンスや歌に熱中している姿が見られた。	方向は間違っていないと思う。	子育て支援だからと言って、子供だけをターゲットにした事業展開では片手落ち。親はもちろん地域の大人を巻き込んだ事業展開が望ましい。	地域の世代間交流の促進に寄与した。	コミュニティ推進課 自治振興費	
地域イベント開催事業	600	補助金 600	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者を楽しんでいただく。	コロナの影響で開催されていなかった。	久しぶりの開催であったが、多数の参加者があった。野点は1000人ほどの来場者、動物園も行列ができていた。	地域の皆さんに喜んでいただけたと思われる。	菖蒲祭り実行委員会全体の予算が年々縮小し実行委員会サイドからため息が漏れている。	新型コロナウイルス感染症対策のためイベントを実施し地域の活気作りになったものと認識。	空港・観光課 自治振興費	
オータムフェスティバル開催事業	200	補助金 200	緑丘小学校において校区全体の交流を目的としたフェスティバルを開催する。	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費	
ふれあい落語会開催事業	200	補助金 200	本格的な落語を身近に鑑賞できる機会をつくるためのイベントを開催する。	コロナの影響で開催されていなかった。	久しぶりの開催であった。従来より入場者を半減しコロナ対策をとって開催した。	今年は上方で一番持ちネタが豊富といわれる桂文我さんをお招きし開催した。CDではなく、生のお囃子で落語を堪能していただけた。今までで一番よかったとの感想をいただいた。	落語家さんと交渉してくださる方が高齢になり我々が自ら落語家さんとのネットワークを作っていかなければならない。今年度も文我さんをお願いし了承を得ている。	初めての参加者が約3分の1いることから、事業の告知が積極的になされていることが伺える。	人権・文化国際課 自治振興費	
オペラ鑑賞会開催事業	820	補助金 820	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、親と子、地域住民との交流を図る。	コロナの影響で開催されていなかった。	久しぶりの開催であった。学校側からの要望で児童だけを対象とした開催となった。	子供たちは大きな声で笑いながら楽しそうに鑑賞していた。	今年度は狂言公演であるが、PTAや住民の皆さんにも鑑賞していただけるよう学校と話し合う。今回はこんにやく座と学校との日程が合わず演目を変更しての開催となったが、このような事がおこらないよう注意したい。	演目の変更という事態もあった中で、代わりの演目が子どもたちが学校で習ったばかりの話を扱っていただいた。分かりやすく楽しめたという声もあり、臨機応変に取り組んでいただいた。	人権・文化国際課 自治振興費	
健康啓発講座開催事業	100	補助金 100	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	健康啓発講座も回を重ねてき、多くの情報を伝えてきている。	新しい体操なども取り入れ参加者の皆さんに良い情報をフィードバックできている。	認知症に対し恐れることなく予防、介護していくための一助となっていると思われる。	新しい情報をどんどんお示しできたらよいと思う。	認知症の人やその家族が住み慣れた環境で暮らし続けるためには、認知症に対する周囲の理解を深めていくことが重要であるため、有意義な活動であると認識している。	地域支援課 自治振興費	
緑丘小学校イルミネーション支援事業	60	補助金 60	イルミネーションコンサート時に使用するツリーライトのLED化を支援する。	古い電球のイルミネーションが残っており電気料金もかかっているであろうと思われる。	少しずつLEDに置き換えていっている。	電気料金も少しずつ下がっているのではないと思う。	効果を出すために、来年度古い電球をすべて置き換えようと思っている。	古い電球をLED化することで、効果的な節電につながった。	教育政策課 自治振興費	
キッズランド支援事業	50	補助金 50	心豊かでたくましい子どもを地域全体で育むため、大人が指導員となり遊びやスポーツ、文化活動を通じて交流を図る。	—	—	—	—	新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費	
計	5,341		事業提案限度額 10,520千円	次年度繰越金額 5,179千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	説明										
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	2,195	消耗品費 159 電気使用料 77 設備保守点検委託料 29 機器備上料1,920 電柱等共架料 10	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。 事故や犯罪を未然に防ぐ為の防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	神田小学校、消防分団横の2ヶ所しか防犯カメラがなかった。 神田地区にて白屋空き巣泥棒に入られるという事態が発生。	令和3年度に神田地区の出入りをカバーする15ヶ所に防犯カメラを新設した。 また、防犯カメラ設置済の部分反射看板も4年度に設置、PR効果を期待している。	神田地区の不審者の出入りがキチンとみれるようになった。 事故抑止効果が期待できる。	新規設置場所の検討が必要。（特に自治会・町会組織が無い地域）	各分会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	前年度に設置した防犯カメラの維持費が提案額の大きな割合を占める中、新たに街路灯の設置等を行ったもの。 協議会の会員数が減少し、役員のみ手不足も顕著になっており、協議会の体制強化が急務であると認識するところ。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	行事報償金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和4年度も残念ながら新型コロナ関連で盆踊り大会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。 令和元年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。 令和2年・3年・4年ともコロナ関連で実施できず。	令和元年度から行事報償金への変更した。 今後も継続して支援金額の検討が必要。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
街路灯強化事業	643	電気使用料 43 修繕料 600	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。 （放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘） 市道夫婦池神田線が街路灯が少ないという地域からの声が上がっていた。	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。 維持費も発生。 令和4年度に夫婦池神田線に新たに10基新設した。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。 新たに10基新設したことにより、夜間通行が安全にできるようになった。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。			街路灯の設置により、地域内の夜間交通の安全確保が図られた。	土木管理課 交通対策費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を盆踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。 令和4年度も新型コロナ関連で住民運動会は実施できなかった。	地域行事の活性化が図れた。 令和2年・3年・4年と3年続いて実施できず。	毎年、助成必要金額の検証が必要。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	生涯学習推進課 社会体育振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車パトロールを行う。	P T Aによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。（平成21年1月以降） 平成30年度につづき、継続実施できた。 また、令和元年度に老化に伴いバッテリー交換不可のため新規に3台購入。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。 また、PRのためパトロール中の肩掛け標も効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。			危機管理課 自治振興費	
地域内会館備品整備事業	100	補助金 100	神田会館に子ども文庫を設置し、絵本を見るために子どもが集まりやすい環境をつくる。	神田会館には遊具以外に子どもが集まるような備品がなかった。	子ども文庫を設置し、絵本をみるために子どもが集まりやすい環境をつくる。	マット・絵本を購入し、いざ子ども文庫を開設しようとした矢先にコロナ関係で会館の利用ができなくなった。 絵本追加購入実施した。	令和2年度に入り、コロナ騒動が収まってから子ども文庫を開設・PRに努める。 また、新規絵本購入方法の検討も必要。 令和3年度もコロナ関連で開設できなかった。 令和4年度もコロナ関連で開設できなかった。			子ども文庫の運用については、運営委員会と協議を行なった上で適切な管理運営をお願いするもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	336	補助金 336	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等がなく不便。（個人の機器の使用・コンビニでのコピー）	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管用の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせずすみ、協議会用書類も安くコピーできるようになった。	専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。 コピー機も他団体が利用できるように検討が必要。			運用基準を設けた上で、適切な管理運営をお願いするもの。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	847	補助金 847	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。 令和2年度以降中断していたカレンダーの発行要請が強く、令和4年度に再度カレンダーを発行した。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。 住宅の増加を常にチェックし発行部数の検討が必要。			住民からの要望により数年ぶりに復活した事業。地域への愛着心の形成に寄与しているものと評価。	コミュニティ推進課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	令和元年度も年3回の神田フェスタを開催予定していたが、今年にはいつのコロナ感染の問題で3月予定のフェスタは中止となった。 令和4年度は令和4年9月、令和5年3月とフェスタは2回実施できた。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。 久しぶりの神田フェスタということで大勢の参加で賑わった。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむつかしくなってきた。（神田地区中心部にある民間設備の利用も検討） 令和2年・3年と2年続いて開催できず。			2回の神田フェスタを開催し、多くの方が来場したことで、地域のにぎわい創出の一助となっているものと認識。	空港・観光課 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	77	補助金 77	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。また神田小3年生とP T A、地域と一緒に花を育て、学校や街に植えつける。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に入札替え・水やり等ができるようになった。（神田花の会メンバーが対応） また、令和元年度から神田小学校3年生とP T A、地域と一緒に花を育て、学校に植えたり、地域の施設・団体に贈呈することも始めた。	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園花壇など必要な場所がないか検討が必要。			地域住民や公園利用者、綺麗な花々が楽しめる喜ばれている。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金 150	子どもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	子どもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。 令和4年度も新型コロナ関連でキッズランドは実施できなかった。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。 令和2年・3年・4年度と3年続いて実施できず。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。			新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	教育センター 自治振興費
計	5,068		事業提案限度額 11,254千円	次年度繰越金額 6,186千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（令和4年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
	交付金	負担金									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								コミュニティ推進課 自治振興費
細河祭り運営事業	150	150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行って、コミュニケーションを充実させることができた。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	小学校の廃校に伴い地域での行事継続の取り組み方。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	ほとんどの事業が継続事業であり、地域のNPOとともに地域の活性化に貢献したものと評価。一方、メンバーの高齢化が進んでおり、一部で継続が困難な事業が出てきていると聞き及ぶところ。人員体制の強化が課題であると認識するところ。	地域の祭りの継続を行い、周辺住民を含む来場者が楽しめるイベント作りに取り組んでいるものと認識。	空港・観光課 観光費
細河の自然を守る事業①	41	41	ピオトープでのホタルの育成事業を実施し、細河の環境資源を活用した地域の活性化を図る。	ピオトープの整備継続中である。	整備は継続中であるがメダカ等生息の観察ができる。	豊かな自然環境の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。自然観察・保全を行う諸団体とも交流を持つことができた。	引き続き維持管理を行うため、多額の予算が必要となる。			継続した整備により自然環境の保全に繋がっているものと認識。	環境政策課 環境対策費
街路灯強化事業	8	8	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。			街路灯を適切に維持管理することで、夜道の防犯対策に寄与することができた。	土木管理課 交通対策費
細河コミュニティ道路維持管理事業	69	69	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	設置した街路灯の電気代の支払いが必要である。また、雑草や枯葉等で滑ったりして危険である	電気代を支払った。また、急な個所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要			コミュニティ道路の清掃や除草等により、適切な維持管理を実施できた。	土木管理課 道路維持費
地域コミュニティ紙等発行事業	360	360	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかわからないため、活動を知っていただき、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会毎の事業報告や親水公園・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。地域の方が何を考えているのか投稿コーナーを充実させていきたい。			写真が多く、内容が充実していることで取り組みのイメージがしやすく楽しい誌面になっている。引き続き地域住民が必要としている情報を掲載してほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費
細河ホームページ管理事業	120	120	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月2回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。			引き続き、より見やすくタイムリーにサイトを更新できるように、努めてほしい。	広報シティプロモーション課 自治振興費
細河地域活性推進事業	1,758	1,758	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営を行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営が必要である。	みどりの郷（火曜日は休館）は朝9時から午後4時30分まで開館している。多くの方が訪れ、地域の活性に貢献した。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。細河の自然を市民に提供し、地域活性に寄与した。	事務所詰め等のボランティアの募集。			案内所の運営をはじめ、美化活動等にも取り組み、細河の活性化に寄与したものと考える。	空港・観光課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	2,800	2,800	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評であった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な妊婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増額し、他の事業に支障をきたす。			地域住民が主体に実施する配食を通じて、高齢者の見守りや子育て支援につながっていることを評価。	高齢・福祉総務課 自治振興費
細河の自然を守る事業②	730	730	里山での竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	里山保全活動では軽トラックをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。			リサイクル事業も進み環境改善も進んでいるが、事業継続には予算や人的資源に検討を要する。	公園みどり課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	30	地域と学校と一緒に実施する「みんな育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。			引き続き両地域の協働が進むことで、連携強化と地域美化が更に進むことを期待する。	公園みどり課 自治振興費
体験学習支援連携事業	400	400	地域と学校との交流を通じた活動を行うことにより、子どもたちの知識や情操の発達・向上を図るとともに、これらの活動を通して、地域への愛着心の涵養を図る。	食育、川遊び、森林の間伐等について、学校と連携した活動が増してくる。	学校授業として、食育、川遊びを体験してもらう。	自然とのつながりを生徒とともに学習することで、学校授業に寄与しました。	地域と学校とのかかわりをさらに深める。			生徒に貴重な体験の機会を提供するとともに、地域と学校との連携・協働を図ることができた。	教育政策課 自治振興費
細河地域子ども育成事業	300	300	校区全体で子どもの育成を行い、協議会と子どもが協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども達の活動支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	8月にプール場、11月芋ほり、2月にいちご狩りを実施する。子どもの育成に寄与することができた。	子ども達の活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子どもとのかかわり。			子どもの育ちを地域で支える環境づくりを進めることができた。	教育センター 自治振興費
計	6,866		事業提案限度額 6,866千円	次年度繰越金額 0千円							

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目（目）
		説明									
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									コミュニティ推進課 自治振興費
安全パトロール実施事業	502	修繕料 72 保険料 50 自動車重量税 9 補助金 371	地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。 H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。 H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。 H30年、大遊協から提供された青パト車が配備された。同時に、除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が全く進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。 R1年、隊員の高齢化が進み、80歳を機に除隊の申し出が多くなった。R2年以降は、免許証なしだが、同乗でパトロールをお願いして隊員補充を行なっている。 事業開始時から使用している青パト車の整備に、予定外の故障が発生しており、整備費が嵩んだ。さらにR3年2月、3月と連続してバンクに見舞われたので、安全確保のため、タイヤ4本を交換した。 令和4年1月に、テイズのバッテリーが上り、バッテリーを交換し、100Vチャージ器で定期的にバッテリーの充電点検を行うことにした。	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回を行った。特に朝は定点立ちパトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。 巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。 R4年度は昼間担当の数名の隊員が体調不良で除隊を申し出ており、昼間の出勤が激減した。補充のため、多数回の常務をして頂く隊員に夫婦での乗務をお願いした。	パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりを、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪“0”を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年、30年、31年度共に不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするよう隊員に要請した。 令和2年度からは、駐車違反やごみ不法投棄、猫ことで度々地域住民に呼び止められることが多くなったが、池田署や市役所への連絡でしか対応することができない。 朝のパトロールは走行よりも主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。 隊員の減少と現隊員からの出勤の曜日や時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が限定されるため、運行スケジュールに空欄が多々生じている。 出勤が二人ペアが鉄則であるため、65歳以上の高齢者の同乗をお願いして運行スケジュールを凌いでいる現状であるが、交通に閉鎖的な地域が幸いして、パトロールにおける事故は全くなく、このまま安全にパトロールができることを願っている。	前年度コロナ禍のため実施できなかった事業もいくつか再開され、コミュニティのつながりの強化に寄与したものと評価。 また協議会への新たな会員の参画が複数あり、今後の展開に期待するところ。	日々の地道な活動が地域の安全確保に繋がっている点を評価するとともに、本事業がより一層の犯罪抑止に繋がることを期待	危機管理課 一般管理費／自治振興費 総務課 財産管理費	

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>2,000</p>	<p>建物借上料 500 補助金 1,500</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の張り替えを行なった。平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。 伏尾台地域に入ってきたすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。 平成31年度(R1)は、地域活性化事業の伏尾台 山びこコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。 コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 令和2年度は、実績で4,929名である。子育て支援ルームのみの利用者は1,155名であり、フリーサロンなどへは3,774名が来訪された。 コミプラ内のエアコン1機が故障し、高額な交換作業が発生したが、事務費などの切り詰めなどで何とかしのぐことができた。 令和3年は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。本年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、子育て支援ルームや行政証明端末、送迎申し込みなどの対応を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。 本年も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は微増であったが、プラザ全体では大幅に増加した。おでかけサポートグリス路の実証実験の拠点としてコミプラを活用できた。</p>	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なう中、自動体温計とアルコール消毒液を設置し、来場者に使用を促し、安全第一で運営を行なった。 伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、R4年4月1日よりR5年3月31日までの実績で、6,234名の利用を頂いた。 来訪者のうち、子育て支援ルームを主目的とした利用者は、約750名であり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、8月は支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用は微増であったが、プラザ全体では大幅に増加した。 グリスロ実証実験と山びこフェスタの開催、他のイベントなど、土曜日の稼働が利用増に影響している。</p>	<p>コミプラのフリーサロンの利用者数は、コロナ禍で減少したが、これが回復し増加し、キオスク端末の利用も増加し、トイレのみの利用も多くなっており、コロナ感染症の拡大は今後も続くと考えられ、換気と消毒を定期的に行う必要がある。しかし、掃除スタッフの不足があるため、外部委託を検討したい。 子育て支援ルームの利用は年々減少しており、人口減少で未就園児の絶対数が少ない上、2歳児から預かる施設の利用も進むこともあり、減少は避けられない。また、社協のファミリーサポート事業の会場として利用できるようにしているが、利用者の増加には結びついていない。 はぐのさとの教室を利用して、親子ランドを設備し、支援ルームを利用できない幼稚園児以上の年齢の子供たちが利用できるように園りたい。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、コミプラには、建築協定連合委員会の事務局も配置しており、今後ともまちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、現在11名（掃除スタッフ兼務2名）でローテーションを組んでいるが、減少の上、依然として絶対数が不足し、募集を行うも応募が全くない。 複数年度の事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。</p>			<p>コロナ禍前の利用者数に徐々に戻りつつあり、コミュニティのつながりに寄与しているものと評価。人員体制の強化は引き続きの課題と認識。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
----------------------------	--------------	--------------------------------	---	--	---	--	---	--	--	---	----------------------------

<p>コミュニティサロン設置事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中で立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度(R1)は7,386名であった。 里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 宿題カフェ会場として利用されている。 夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 高齢者の居場所つくり意見会の会場として利用した。 山びこフェスタの落語の会、音楽会の会場として使用した。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能している。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 また、伏尾台送迎サービスが国交省の日本版MaaS実証実験の中に組み入れられて令和2年12月～令和3年2月に実施され、実験拠点として利用された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、ほそごう学園生の宿題をグループで行う生徒、試験前の高校生グループ、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 令和2年1月より始まった「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスにおいて、送迎の始点、終点のポイントとして機能しており、R2、R3、R4の国交省の日本版MaaS実証実験に続いて、R4、R10-12に、トヨタグループの協力のもと、お出かけサポートグリスロの定時定路線の送迎サービス実証実験の送迎の始点、終点のポイント、待機拠点として機能した。 コロナ感染症の拡大と共に、従前のコミュニティサロンの利用者が大きく減少した。特に会議の類は利用者数を制限した会議をお願いした。 その反面、らくらく送迎の利用者、お出かけサポートグリスロの利用者が増大してサロン自体の利用者減を補う形になっている。また、キオスク端末の利用が、マイナンバーカードの普及とともにコロナ禍で外出が控えられているため増加している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,234名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>	<p>利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、単純な利用者の増大を図るのではなく、地域の年齢構成を考慮した子供から大人の多世代交流を促進してコミュニティを形成できる、イベント開催を想定する必要がある。</p>	<p>感染症対策を講じながら、送迎サービス事業とも連携してサロンとして有効に活用されているものと評価。徐々にコロナ禍前の利用者数に戻りつつある。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>
<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供しボランティア活動者に対して情報発信や斡旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置したまちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は7,903名、平成29年度は7,870名、平成30年度は7,597名、平成31年度は7,386名で、子育て支援ルームのみの利用者は、2,176名であり、フリーサロンなどへは5,210名が来訪された。 令和2年度は、実績で4,899名である。子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。 令和3年度は、実績で4,500名であり、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。</p>	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」の 카테고리に分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。 コロナ感染症拡大の影響で、利用者が減少する中、キオスク端末の利用者は増加している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で6,234名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約750名であり、フリーサロンなどへは5,484名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されており、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できている。今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 令和5年度は、コミュニティサロンの壁だけでなく、サロン内での掲示が可能な掲示板システムを導入し、サロンでのイベントとして、写真や絵画、図工作品などの展示会を開催することでコミュニティの創出、情報交換の促進を図る情報センターとした。</p>	<p>地域の情報拠点として認識され、コミュニティのつながりに寄与しているものと評価。更なる機能強化に期待するもの。</p>	<p>コミュニティ推進課 自治振興費</p>

<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>780</p>	<p>建物借上料 500 補助金 280</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。</p> <p>平成30年度は、登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名であった。</p> <p>平成31年度は、登録会員数は85組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,176名であり、社協のファミリーサポート事業との連携を進めた。</p> <p>令和2年度は、子育て支援ルームのみの利用者は、1,155名であり、フリーサロンなどへは3,744名が来訪された。</p> <p>令和3年度は、子育て支援ルームのみの利用者は623名であり、フリーサロンなどへは3,877名が来訪された。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、支援ルームを閉めたり、利用制限を行なったため、支援ルームの利用はコロナ禍前の3割程度と激減し、プラザ全体で40%程度の減少であった。</p>	<p>子育て支援ルーム登録会員数は、幼稚園児となる家庭が多く、80組に減少し、コロナ禍で8月にルームの使用を停止し、その後は人数制限を行ったため、延べ750名であるが、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守るという目的を達成することができている。</p> <p>保育所等で2歳児から預かる制度が進み、早くから託児する家庭も増えるなどとして、利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携して、支援ルームでサポートが行われるが、利用数の増大には至っていない。</p>	<p>協議会主催のフレンズを中心に、ホップ君、自主サークルひよここと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集いは中止した。ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し好評を得た。月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となって好評であったが、コロナ感染症拡大の防止で中止した。七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が例年多く、夏休みなどに、はぐのさと、旧伏尾台小学校の旧なかよし会の部屋を開放する計画を立てたい。</p> <p>今後、感染症の拡散防止のために、空気清浄機を効率よく使用することを想定するが、感染予防に対する意識が少ない母親が多く、清掃も後片付けも利用者がある程度行うことをお願いするも、住民の管理下にあることが理解できず、市の施設だから自分たちはしないという意識がとて強いことに驚いている。</p> <p>綺麗で便利な施設があれば利用するが、掃除や片付けまではしたくないと明言する母親が多い。今後の運営を抜本的に見直す必要がある。</p>			<p>親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着しているものと認識。運営者・利用者の中で、本事業の趣旨の共通認識と相互理解を図り、子どもにとって安全・安心な環境を整備するとともに、地域で子どもを育む風土醸成の実現を期待する。</p>	<p>コミュニティ推進課／子育て支援課 自治振興費</p>
--------------------	------------	------------------------------	---	--	--	--	--	--	--	---	-------------------------------

<p>地域コミュニティ紙等 発行事業</p>	<p>280 補助金 280</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、会員のボランティアで実施し、費用は紙とインク代の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青バトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p> <p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p> <p>令和元年11月、第30回やまびこフェスタの落語風景を表紙にして、コミ協の上半期の活動を報告し、下半期の活動予定を広報している広報誌第21号を全戸配布した。</p> <p>令和2年3月末、「はぐのさと」オープン記念際のコンサート風景を表紙にし、防災、子育て、高齢者の居場所づくり、地域交通インフラ整備、などの活動を広報し、旧伏尾台小学校の跡地活用を具体化をコミ協が進める旨について広報し、令和2年1月より「伏尾台送迎サービス」、地域内限定の無料の送迎サービスが開始されていることを広報している広報紙第22号を全戸配布した。</p> <p>ふしおだい第23号は、令和2年12月に全戸配布され、令和2年1月より開始されている「伏尾台送迎サービス」無料のらくらく送迎の降車風景を表紙にして、国交省のMaaS実証実験が開始されたこと、山びこ寄席と音楽ライブ並びに防災訓練が「はぐのさと」で開催されたことを報告し、コミ協の子育て支援ルームの活用を広報している。</p> <p>ふしおだい第24号は、令和3年3月末に全戸配布され、ほそごう学園の卒業式のために祝登りを設置した後に撮影した学園前風景を表紙にし、旧伏尾台小学校の跡地活用の具体化をコミ協が進めた、はぐのさと リサイクルショップの紹介と共に、貸出教室などについて広報し、国交省のMaaS実証実験は終了したが、無料の「伏尾台送迎サービス」は今後も継続して行われることを広報している。</p> <p>令和3年度は、本事業は提案されていないが、ふしおだい第25号を令和4年3月末に全戸配布した。伏尾台の四季の花を表紙にしたもので、コミ協って、何なのですか？Q&A形式で、コミュニティ推進協議会の活動を紹介して、過去の活動これからの活動課題を紹介した。</p>	<p>ふしおだい第26号は、令和4年12月末に全戸配布され、8月から12月まで実施されたイベントの写真を表紙にしたもので、第48回伏尾台夏祭り、9～11月の3回連続やまびこフェスタ、第41回伏尾台大運動会、総合防災訓練とほそごう秋まつり、特色ある公園づくり住民座談会、子ども会とのコラボの掃除、おでかけサポートグリスロ実証実験を紹介した。</p> <p>ふしおだい第27号は、令和5年4月に全戸配布され、はぐのさと（旧伏尾台小学校）の活用が進んでいることの紹介写真と共に、教室を貸し出しスペースとして紹介している。R5年1～3月のやまびこ寄席の報告を行った。さらに、R5年度の活動予定として、夏休みに親子の居場所として親子ランドを開催する旨紹介し、コミ協に新たな掲示システムを導入することも紹介した。また、協議会のR5年度の実施予定事業を紹介した。</p>	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、協議会活動の紹介やアンケート回収には効果があったが、相変わらず協議会入会、安全パトロール隊員の応募などの広報に効果は見られない。</p> <p>平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p> <p>特に、令和3年3月下旬にほそごう学園教職員への地域分権制度と伏尾台地域の活動に関する講義の機会を得た際にはテキストとして活用できた。</p> <p>令和4年度も、ほそごう学園での講師の依頼を受けた際に、テキスト、参考資料として活用できた。</p>	<p>コロナ感染症拡大の最中では、集会やイベントの開催が困難となるが、広報誌を通じての活動の報告は重要であった。しかし、R3年度の事業提案がなされていない際の発行ルーチンが守られず、大きく発行時期がずれ込む癖が付き、年度を跨いで配布していた。</p> <p>令和5年度は、年3回の発行に変更し、e-mail、ホームページ、SNSなどで広報とともに活用できるように、手始めに、Instagram作り着手した。</p>	<p>写真やイラスト文字の大きさなど、とてもバランスよく読みやすい紙面になっている。今後はSNSなども活用した幅広い世代への広報を期待する。</p>	<p>広報シティプロモーション課 自治振興費</p>
----------------------------	--------------------	---	---	--	---	---	--	--------------------------------

地域情報発信管理事業	50	補助金 50	協議会の活動状況やイベント情報を地域住民に発信する。	-					事業未実施により未評価	広報シティプロモーション課 自治振興費
防犯防災啓発事業	200	補助金 200	地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(R1年度1074戸毎年減少)</p> <p>平成30年度は、4月21日防犯教室を開催し35名が参加。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。</p> <p>7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。</p> <p>8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。</p> <p>8月25日は、伏尾台夏祭り会場で延べ45名が、無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。</p> <p>11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。</p> <p>2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。</p> <p>3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p> <p>平成31・令和1年度は、4月25日午後7時より防犯教室を開催、45名が参加。</p> <p>6月2日、防災サイレン鳴動聞き取り訓練に22名参加。</p> <p>8月3日、災害時避難所開設と運営訓練で59名が参加した。</p> <p>8月24日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>9月19日、消防署にて普通救命講習を9名が受講した。</p> <p>11月3日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は450名に達した。ほそごう学園の複数学年が全員参加し、細河の消防団の参加し、旧伏小内の国際研修センターのベトナム人の若い男女25名も参加し、地域一帯の防災訓練が実施できた。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒に延べ105名が参加した。</p> <p>R2年2月以降は、コロナ感染症予防のため、会議などを全て中止した。</p> <p>令和2年度は、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月9日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替え、R3年3月定例会のみ、年度末会議として開催した。</p> <p>訓練活動は、6月21日、資器材の点検使用訓練に12名参加。11月1日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ38名で行い、市が備蓄していた間仕切りテントを借用してこれが有効なことを確認し、補助金で購入を予定していた備蓄品として、間仕切りテントを購入した。</p> <p>住民とほそごう学園生徒との総合防災訓練は、3密を避けるために中止したが、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋は、予定どおり補助金にて購入した。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から50分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延55人で実施した。</p> <p>令和3年度は、事業提案を行っておらず、コロナ感染症予防のため、会議は書面審査による総会(5月8日)の開催を行った。全ての会議を書面通知に替えた。</p> <p>訓練活動は、6月20日の資器材の点検使用訓練は中止した。10月31日に旧伏尾台小学校職員室で、「密にならない避難所運営訓練」を隊員のみ40名で行い、R2年度の補助金で購入した間仕切り店との使用訓練を行った。</p> <p>啓発活動として、12月29日と30日20時から45分間、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して延45人で実施した。</p>	<p>令和4年度は、コロナ禍であるが、総会(5月14日)の開催を行った。全ての定例会議を書面通知に替えた。特に、R5年3月定例会を中止して、R5年4月1日に年度末会議、防犯教室を開催し、30人の参加があった。</p> <p>訓練活動は、6月19日、資器材の点検使用訓練に20名参加。11月6日にほそごう学園で総合防災訓練を行なった。4年生、8年生をはじめ住民ら450人の参加を得た。</p> <p>4.8年生には特にマイタイムラインの作成訓練を受けてもらい、R2年度購入の間仕切りテント、4年度の簡易ベッドを使用して、避難所設置訓練を実施した。</p> <p>さらに、R2年度購入の炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を用い、約500人分の炊き出し訓練が実施できた。</p> <p>啓発活動として、12月27日に歳末警戒発隊式に20人、29日には子供会の参加があり、50名でパトロールを行い、30日は30名で、伏尾台地域の年末警戒パトロールを、密にならないよう分散して実施した。</p>	<p>令和4年度は、引き続きコロナ禍であり、活動は、資器材の点検使用訓練、総合防災訓練、年末警戒パトロール、防犯教室の開催のみであった。</p> <p>購入備蓄した間仕切りテント、簡易ベッド、炊き出し用のLPガス窯と寸胴鍋を使用した、避難所設置訓練、炊き出し訓練を450名の参加を得て行うことができ、今後の有効活用が期待できる。</p> <p>地域の安全を高齢者と共に考えて貰えるように、子ども会の参加が得られ、好評であったため今後も継続して開催したい。</p>	<p>コロナ禍が続き、備蓄資器材の使用訓練や見学会などの要望に応えられない状態が続き、災害時の安否声かけができる体制の確立のために不可欠な近所づきあいを深める活動ができない現状をどう解決するかが問われる。</p> <p>活動を担ってもらう伏尾台防災・防犯委員会においても、高齢化で除隊する委員が増加し、90名から一気に70名台に激減したことが大きな課題となっている。</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識の向上に繋がる活動の実施を評価するとともに、購入備蓄品の有効活用及び更なる地域住民を巻き込んだ活動に期待</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>	

多世代交流支援事業	180	補助金	180	幼児から高齢者までの地域住民が集える行事を行い、多世代交流を図る。	-			
地域行事等活動促進事業	44	補助金	44	行事を通して住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。	-			
伏尾台地区活性化事業	280	補助金	280	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。 毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。 平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。 平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。 平成30年度は、室内コンサート2回、落語の会2回を開催した。 平成31年度は、室内コンサート2回、落語の会1回、屋外コンサート1回を開催した。これまで31回の山びこフェスタを開催した。 令和2年3月上旬に予定した落語の会を新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため中止して以来、令和2年前期も引き続き、イベント開催を中止した。 10月25日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室にて、第32回山びこ寄席 二人会を開催した。11月2日(日)午後から旧伏尾台小学校職員室で、福留敬とアブサント室内合奏団(演奏者7人)による第33回音楽ライブを行った。 令和3年度は、事業提案限度額削減のため、事業提案できなかった。	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、換気を行うコミプラ入室に際し、人物特定、検温。手のアルコール消毒を行い、座席間隔を取り50人定員とし、マスク着用で着席していただく形で、山びこフェスタを6回開催した。 9月10日(土)第34回お笑いライブ リピート山中 10月22日(土)第35回落語会 桂楽珍 露の峯 11月26日(土)第36回音楽ライブ 大串明子、新井正美、井上比佐子 1月28日(土)第37回落語会 林家菊丸 月亭希遊 2月25日(土)第38回子供向け落語会 林家菊丸 3月18日(土)第39回お笑いライブ リピート山中	6回の山びこフェスタは、コミプラで50人定員制で実施したため、毎回、観客50名とスタッフ出演者を合わせると、55名～60名の動員であった。 コロナ禍で2年近くのブランクがあり、定員超えを避けるため、掲示板への告知のみで、特段の広報を行わなかったが、毎回定員の観客が参集して、大いに笑い声が上がった。	久しぶりのイベントに、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、本年度も参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが、応募が全くなかった。 令和2年頃までは、広報の仕方や音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わり、参加人数が異なり、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多かった。 今回もコロナ感染症対策のため、先着50名として掲示板に掲載するのみの広報を行なったが、毎回定員の50名に達した。 地域住民の思い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされてる方が増加していることが確認できたが、今後とも新型コロナウイルス感染症の拡散防止のため、定員制で、開催回数を増やすなどの対策が必要である。	
高齢者の居場所づくり事業	60	補助金	60	高齢者同士と一緒に夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進し、町全体のコミュニケーション能力の向上を図る。	-			
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	25	補助金	25	市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。 この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付して下さることになり、平成28年11月末に設備が完成した。 市への寄付設備の贈呈が行われたが、H28年11月からの電気代などの維持管理はコミュニティ推進協議会が行うことになった。	「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。 また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。退色は少しであるが、汚れが目立つようになっている。	新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往來者に広報できている。 昨年、1丁目に居住し、11月に出産した30代夫婦は、横断幕を見て地域を見学し、保育所などが近いことから居住を決めたという。 また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。	協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。特に、横断幕を取り付けている部分の橋の欄干がかなり汚れている。また、ライトアップ装置の点検維持も住民には行うことができないが、故障等は発生していない。	

新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	空港・観光課 自治振興費
毎回定員を上回る集客ができており、その中でも新型コロナウイルス対策を徹底していただけた。初めて実施された落語の演目についても高い評価を得ている。次回からアンケート結果等の添付をお願いしたい。	人権・文化国際課 自治振興費
新型コロナウイルス感染症対策のため事業未実施により未評価	高齢・福祉総務課 自治振興費
新吉田橋のライトアップにより、伏尾台地区のにぎわい創出に寄与している。	土木管理課 自治振興費

伏尾台地域送迎サービス事業	750	補助金 750	主に自宅とバス停間の送迎を行い、交通弱者の地域内への積極的な外出及び帰宅を支援し、地域内交流の増進を図る。	<p>伏尾台の住民、特に自家用車を持たない、高齢や病気で運転ができない、伏尾台センターへ買い物や通院で通う場合に徒歩以外に交通手段を持たないなどの地域内交通弱者に対しての救済手段が全くなかった。</p> <p>そこで、「伏尾台送迎サービス運営委員会」を組織したボランティアグループが、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の一部を市のアクティブシニア補助金制度で負担し、令和2年1月から3月に、伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」が行われた。</p> <p>送迎車両の運転を無償ボランティアで行う「伏尾台送迎サービス運営委員会」を協議会内に取り組むことで、軽自動車車両のリース代、燃料費、各種保険に要する費用の全額を協議会が事業費として負担することで、「伏尾台らくらく送迎」を令和2年4月以降も継続実施した。</p> <p>コロナ禍の最中のスタートとなったが、地域住民に送迎サービスの再開を告知して、事前個人登録制とし、伏尾台コミュニティプラザに申し込みの電話をかけることで、送迎サービスを受けることができるようになった。</p> <p>一方で、本事業の今後の継続を考えて、国交省の日本版MaaS実証実験の実施地に組み入れられるよう、市の担当部に令和2年6月末までに立候補をお願いした結果、選択されて令和2年12月～令和3年2月に実験が実施された。</p> <p>MaaS実証実験中にキャンペーンの効果もあり、登録者数は190名を超えた。送迎申込回数は、本年度内で520回を超え、送迎人数は800人を超えた。</p>	<p>令和4年度は、キャンセルを含め321件の申し込みがあり、1086名の送迎を行った。</p> <p>令和4年1月にトヨタグループより、7人乗り電動車（GSM）で定時定路線走行を行う無予約型の送迎サービス実証実験の申し入れがあり、前日までの予約型「らくらく送迎」を行いながらの同時並行で、「おでかけサポートグリスロ」として、10月末から12月下旬まで実証実験を行なった。</p> <p>伏尾台1丁目と2丁目の3コースを走行する「おでかけサポートグリスロ」実証実験では、新規登録者約150名、395名の利用があった。</p>	<p>年間、321件の予約、1068名の送迎を行い、送迎サービスのリピーターたちには、伏尾台での生活に欠かせないサービスであるとの評価をいただいた。</p> <p>「おでかけサポートグリスロ」実証実験の開始前後に高齢者を対象にアンケート調査が、日本福祉大学の主導のもと実施され、送迎サービスの利用が健康寿命の延命に効果があることが判明した。</p> <p>予約型「らくらく送迎」で1068名、予約なし「おでかけサポートグリスロ」で395名の利用者は、ほぼ重複することなく、個別の需要であることが判明した。</p>	<p>無償ボランティアドライバーは、事業のスタート時から2名が健康上の理由からリタイアしたが、幸い2名の補充が叶い現在に至り、現在10名である。</p> <p>しかし、スケジュールのローテーションに欠員を生じて、数名に負担が集中するようになっている。</p> <p>平均年齢76歳のドライバーが、平均年齢85歳の登録者を送迎しており、本事業が地域に不可欠な事業となった今、登録者数は増加傾向にあり、当然平均年齢が上昇する中、送迎ドライバーの確保とともにその平均年齢を60歳代に引き下げることが急務と言える。</p> <p>伏尾台地域内限定で無料無償で送迎する「伏尾台らくらく送迎」を、地域の高齢化率が年々上昇する中で、辛うじて実施できている。</p> <p>なんとか協議会で事業を維持している間に、市が事業主体として予算化し、地域の団体あるいはタクシー会社に事業委託する形態の事業、有料有償の「伏尾台らくらく送迎」事業化を検討していただきたい。</p>		年間の送迎人数が1000人を超え、地域内の移動手段として活用されている。	交通道路課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	30	補助金 30	地域と学校と一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	<p>地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がハンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う運動を支援していた。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要があった。</p>	<p>必要金額を細河と伏尾台で2分して負担することができた。本年度もキンセンカ、ラバテラのプラグ苗を約500株を育成用土、肥料等を用いて、3年生と7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。</p> <p>育成したハンジー、ピオラは、令和4年12月12日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、また、地域内の歩道の花壇に植えるなど、やさしい環境作りを行うことができた。</p>	<p>ほそごう学園、地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。</p>	<p>義務教育学校のほそごう学園とともに、地域全体の活動としての意義が高まるため、今後とも継続して支援したい。</p>		ほそごう学園と地域住民、そして細河地域との連携強化により、地域美化の意識が進むことに期待したい。	公園みどり課 自治振興費
計	6,481			事業提案限度額 9,657千円 次年度繰越金額 3,176千円						
合計	67,554			事業提案限度額 108,197千円 次年度繰越金額 40,643千円						